

孝孫
八犬傳
一

^ 13
3704
1





國芳画

初編下



かみきり火侍

初編上

13
3704
1

板新五

かな
讀

犬傳

下冊
篇

文
澤
堂

喜水作
圖考



一

今昔此小説家野の神史と此の書も又此右ふ知るを所し
 奪ふ友人何某あるもの竊小僕我哄誘へ大傳を草襲紙り
 直し多見てハヤウトある。茶利ゆりふ舌輕か特の口草紙のり
 未だ承諾をされとよりうぬ筆。本傳を本傳二百六巻編み今合巻
 綴らんぬ。右処に縮免左処を省死其大際紙筆以多編み半ハ画
 残のて是を尔せ只面影紙馬をせ。骨を失ふ莫も有り多ん彼我
 此巧拙其の差別ある我者官を修く勤察しを但本傳の報條
 如く。と見ありのた腹も立下。這も一時の戯れをり
 弘化五年戊申春正月吉且

八傳の編



金碗八郎

孝吉

里見

治部大輔

義實

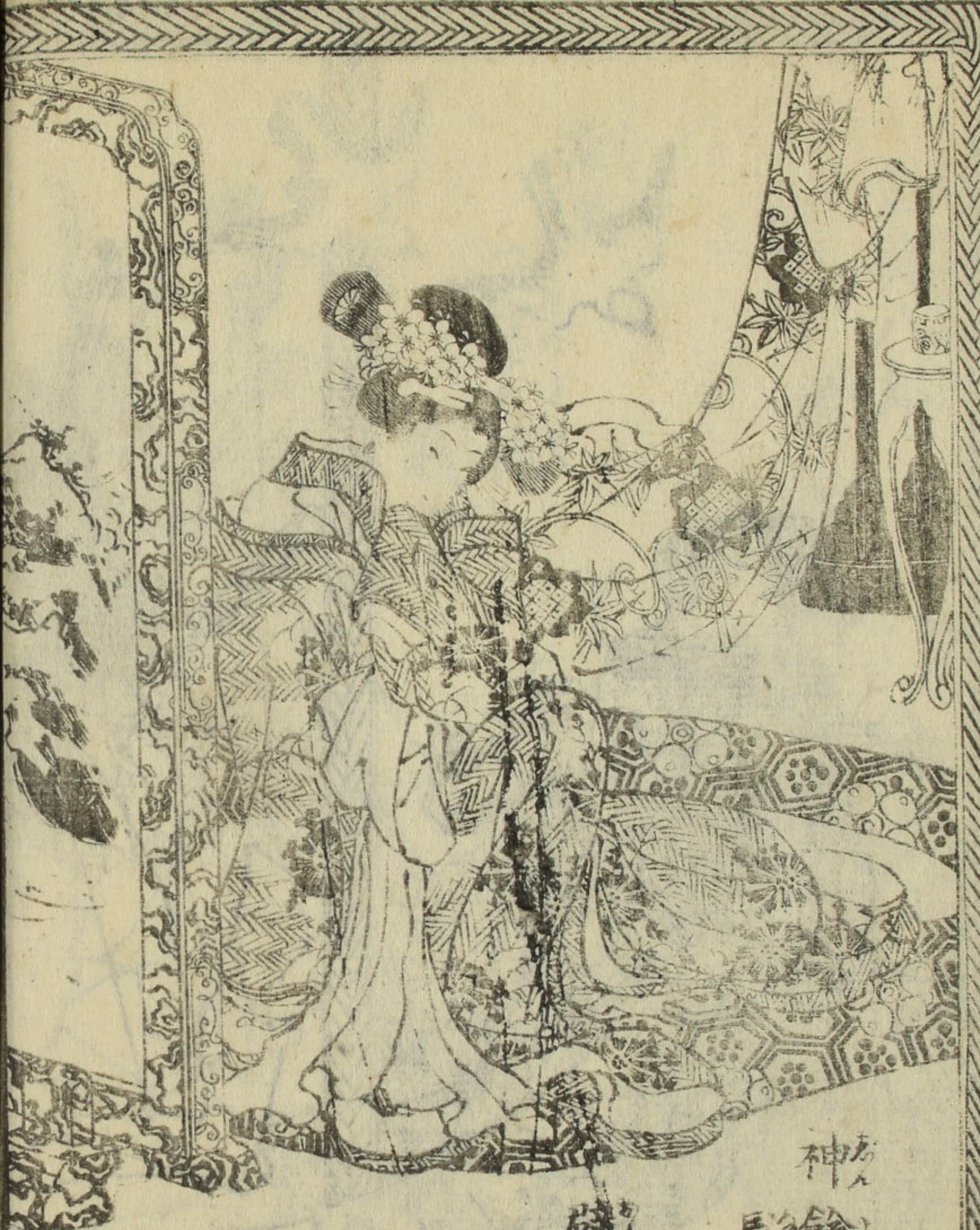
一作

處女

小菰



山下 備左
定包 尉門

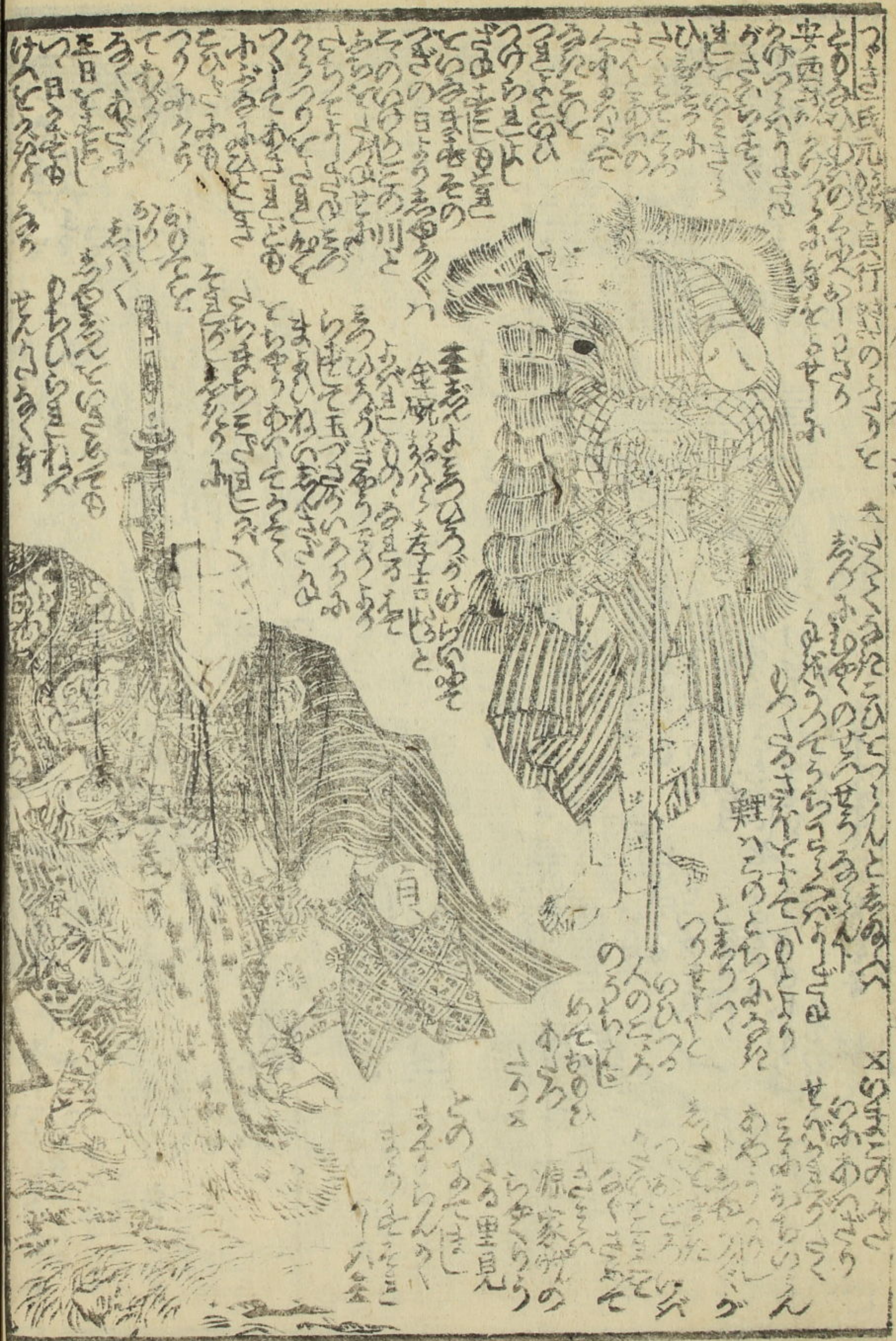


神長 餘
光 狹助
安 妻
玉 梓





大書ノ刀編

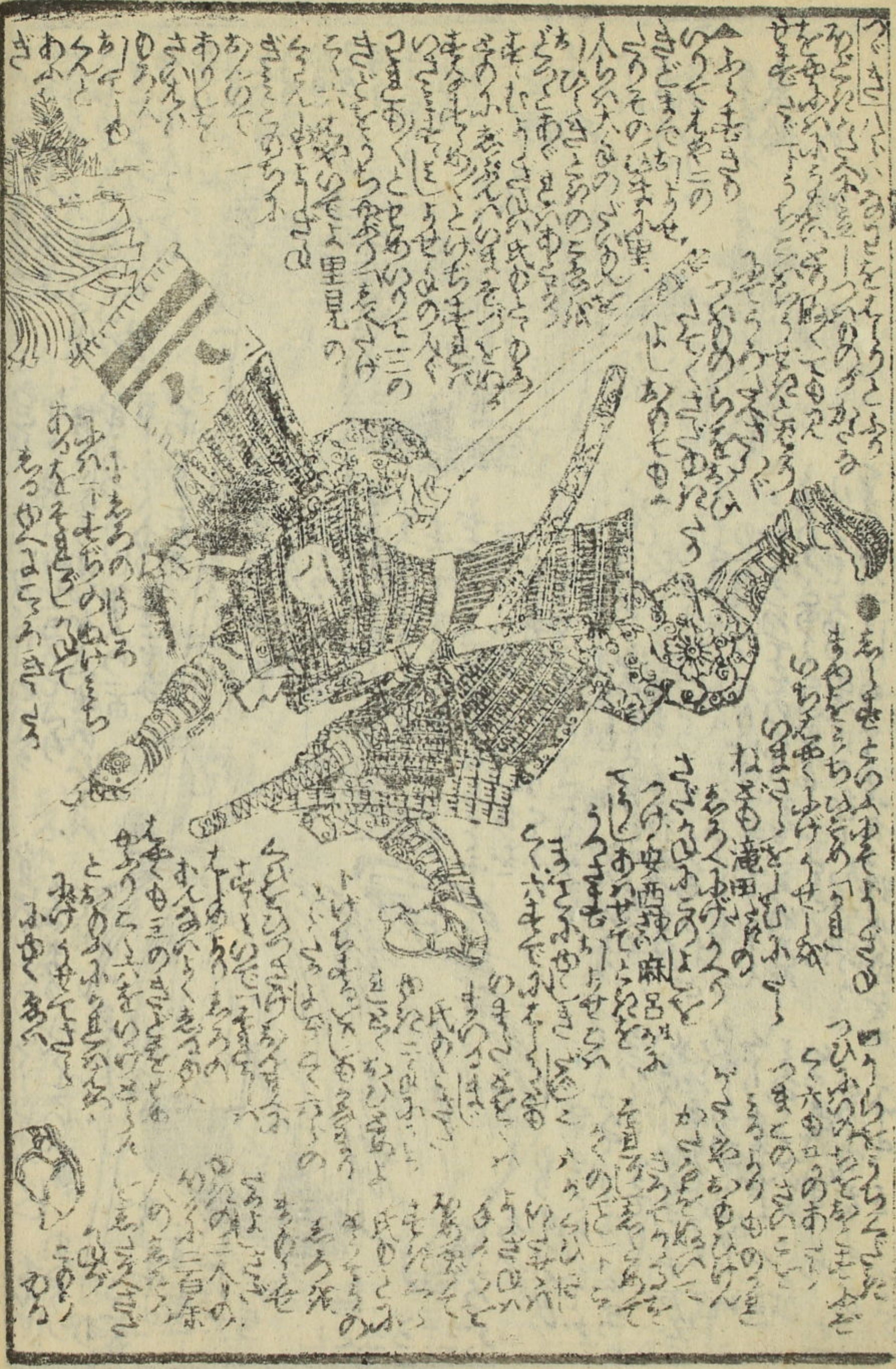


大書ノ刀編



犬傳

十一

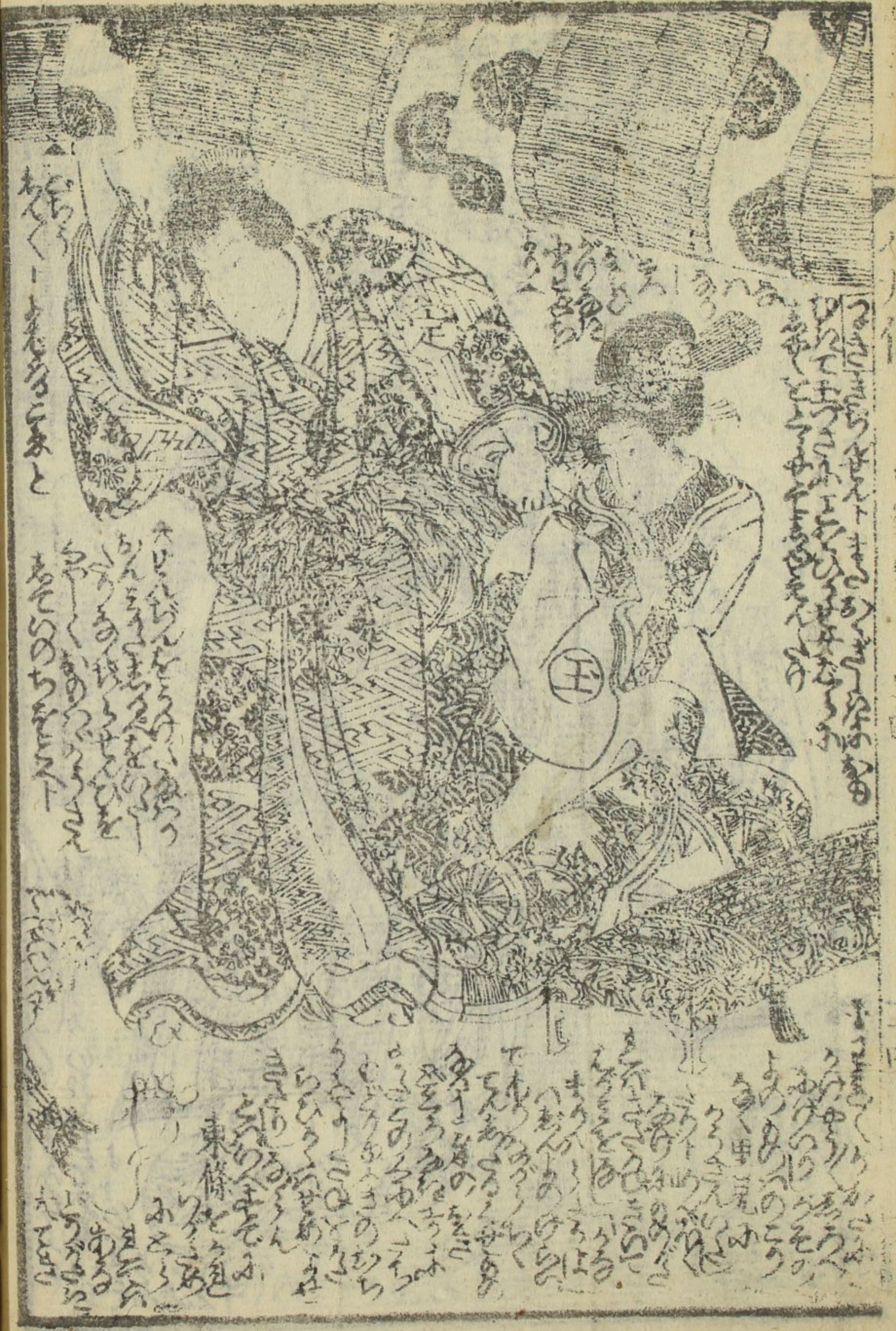


十一



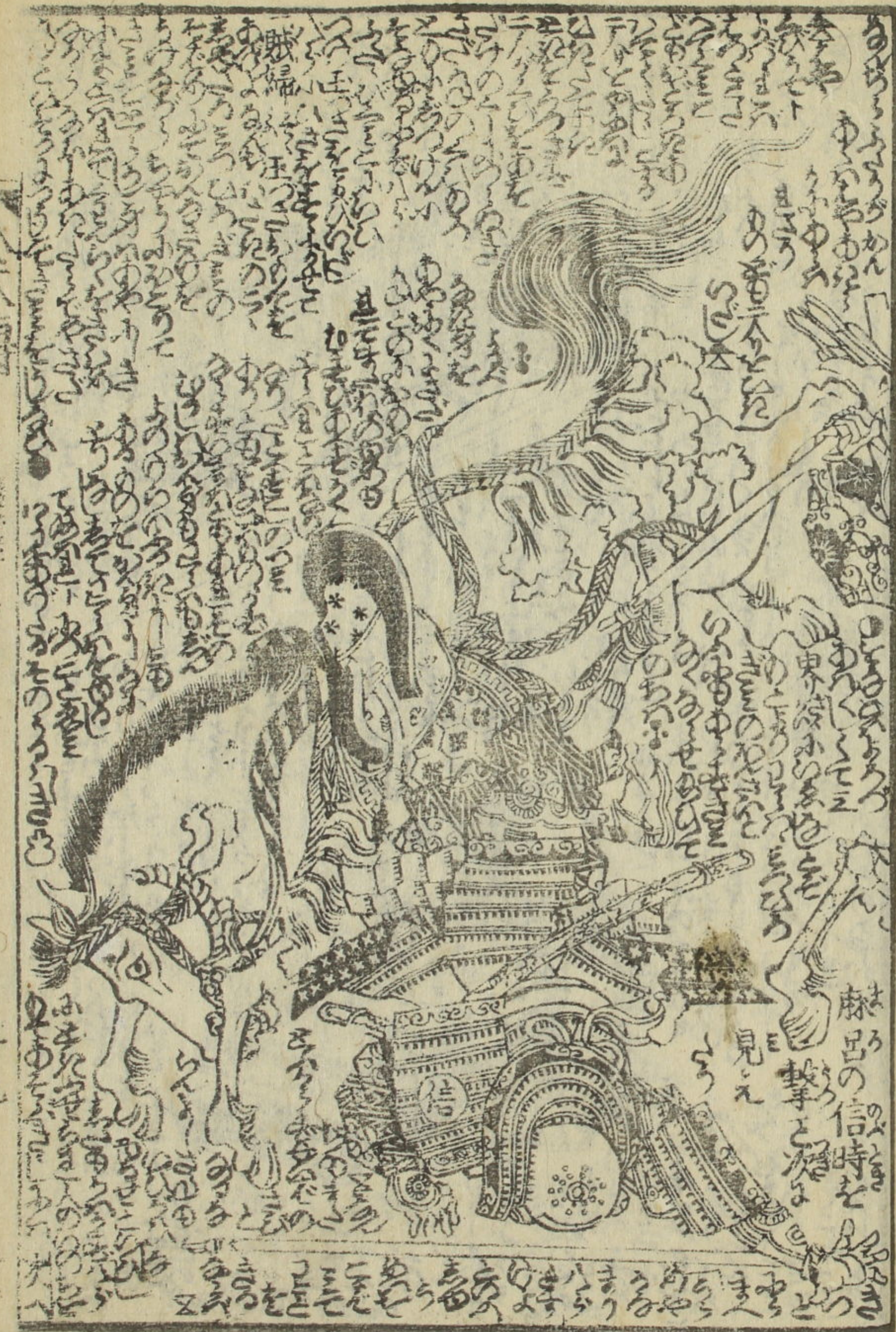
一六

一五



一七

一六





一勇齋國世方画

